

## 令和元年度大阪府地域活動栄養士情報交換会

開催日：令和元年 6 月 29 日（土）

会 場：大阪府社会福祉会館

元号が令和になって初めての大阪府地域活動栄養士情報交換会が開催されました。

大阪府の地域活動グループの代表および会員、地域活動部会員、地域活動部会強化委員・理事など 53 名が参加しました。

### 1. 講話 「授乳・離乳の支援ガイド（2019年改訂版）」（以下支援ガイド2019とする）

#### 改訂のポイント

講師 大阪母子医療センター 臨床検査科主任部長 位田 忍先生

平成 19 年に「授乳・離乳の支援ガイド」が作成されてから 10 年が経過し、新たな科学的知見が蓄積され、また平成 27 年乳幼児栄養調査の結果を反映する必要があるなどを踏まえ、今回新しい支援ガイド 2019 が作成されることとなった。

支援ガイド 2019 の策定は、他のガイドラインの作成と同様に、まず課題抽出が行われ、その内容を吟味しクエスチョンを作り最後に提言としてまとめるという方法で作成された。提言については過去 10 年間の文献の中で優れた論文を選び作成された。

支援ガイド 2019 では現行の母乳栄養の推奨の変更が必要ないものの栄養法にかかわらず育児支援が必要であること、また母乳栄養の効果に関しては限界があること、アレルギーについては受診をせずインターネットや書籍での情報を元に食事制限を行っている割合が 3 割に上るため栄養とアレルギー疾患の関係をより科学的に説明する必要があること、離乳食の開始時期については変更する必要はないものの、離乳食の進め方は口腔内の発達を踏まえるなどの説明をする必要が有ることなどが提言として示された。

最後に栄養士に対して、離乳食の開始時期には母親の不安が増す傾向にあるため支援ガイド 2019 を参考にしつつ子どもの咀嚼機能の発達に合わせた適切な離乳食の食事指導が求められているとのこと、また食事だけでなく就寝時間を含めた生活リズムなどの提案を行い育児不安のある母親に対して専門家としてネット情報に負けない実力を発揮して欲しいとの言葉で締めくくられた。

### 2. 情報交換会

1) 部会長より、大阪府栄養士会のホームページのリニューアルを令和元年8月に予定しており、各地域活動栄養士会グループの情報、会員募集などを書き込めるようになる。

地域活動部会に所属する会員でグループに所属していない会員に対する情報の共有化については地域活動部会に情報提供が必要であるという旨を連絡いただければ発信すること、現在 16 名の会員に対し情報提供を行っている。

2) 子ども料理教室2019改訂についてのマニュアルについては発信済。

今年度の担当グループ

茨木市地域活動栄養士会ヘルシーサポート茨ラッキー 7/20

交野・畷・大東地域活動栄養士会メープル 11/24

松原市地域活動栄養士会 冬休み中に実施予定

泉大津・高石市フリー活動栄養士会 8/3

会員数の減少に伴い予算の減額等が報告された。

3) アンケート結果報告

アンケート内容は、この3年間に新しく増えた事業・活動の有無、なくなった事業の有無、あ

る場合の事業内容・報酬等、今後実施したい活動・事業、実施するまたは実施を希望する事業に対し必要なことや、準備していることの有無、今回の情報交換会で取り上げて欲しい議題、今後も情報交換会を継続したいか等についてであった。

他のグループに質問したいことでは、定例会で勉強会等を行う時間を作っているかで、行っているところと、そうでないところと二分された。また、栄養ケアチームの登録を行っているグループに対しメリットはあるかとの問いに、現状ではないとのことではあるが、今後は栄養士全員で盛り上げる必要があるとのことであった。

#### 4) 情報交換

##### ①会員数の減少、増やし方について

増加しているグループより、「様々なところで、また機会あるごとに外に向けて声掛けをまめに行った」や、「職場での声かけや、友人からの紹介」という話があった。入会すると仕事があると口コミで広がり入会をしても、仕事がないと退会するという難しいこともあると報告された。今後は、ホームページ上での会員募集を活用して欲しいと司会者より話があった。

##### ②事業単価基準はどのようにしているか

単価表を作成し、提示しているグループでは、表の存在により受け入れてもらいやすく、説得しやすいというメリットがあるとのこと。依頼された事業についてお金のことは口に出して言い、無料では行わないことなどの意見があった。

様々な意見が活発にあり、3時間では足りないほどの盛り上がりとなった。

今後は栄養士という職種、その中でも地域にいる地域活動栄養士はグループでの活動および個人個人のスキルアップの必要性を感じる情報交換会となった。

(文責 地活 栗林美貴子)